

令和6年度

小松島南中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 自主学習ノートを活用し、自ら考え主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- ② 授業マナーの向上を図り、落ち着いて学べる環境を整え、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をめざす。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
徳村 茜	校長 沖建治 教頭 高岡伊都子 教務主任 橋本三千代 1年主任 中村美智 2年主任 忠津真紀 3年主任 黒田咲智

校長

沖 建治

【各校の取組状況の把握について】

職員会や校内研修の機会を捉え、クラス・学年・教科ごとに実践している取組についての情報交換を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習基盤となる学習習慣、生活習慣が身に付いている生徒が多い。 ●学力の二極化傾向が見られる。	・授業に意欲的に取り組むことができる。 ・課題を期限内に提出することができる。	・1分前着席・授業準備等、授業マナーの向上を図る。 ・計画的に課題を提示し、丁寧に点検指導を行う。			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○過去に実施した調査結果では、8割の生徒が「授業中、発表等の表現活動に意欲的に取り組むことができた」と答えている。 ●県学力ステップアップテストの結果(現3年)から、国語では話の展開が捉えられないことや書く力が弱いこと、数学では多面的に考える力が低いことが課題である。	・各教科・教科外活動において、発表・作文・レポート・歌・運動・絵等の表現活動に意欲的に取り組むことができる。	・各教科の特性に応じて、スピーチや説明・レポート・鑑賞などさまざまな表現活動を取り入れる。 ・生徒会や委員会活動、行事等で意見発表及び表現活動等、生徒が主役となる場面を多く設定する。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が、落ち着いて学習に取り組む、作業的な学習や新しい課題にも興味をもって取り組んでいる。 ●2割程度の生徒が宿題や自主学習ノート等、家庭学習が十分できていない。将来への展望をもち、主体的な家庭学習の習慣化が課題である。	・具体的な目標をもち、テストや受験に向けた計画的に学習に取り組むことができる。 ・自主学習ノートを1日1ページ以上行ない、授業の予習・復習を自主的に行うことができる。	・学習充実期間を設定し、学習時間記録表を作成し期間中支援を行う。 ・自主学習ノートを点検し、学習方法のアドバイスや模範となるノートの掲示を行う。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

